

研修報告 E グループ 1 班 : D-pocket

1. 大学の役割

大学の役割について、メンバーが所属する各大学の特徴も踏まえて議論したところ、主に以下の 2 点に集約された。

- 1) 研究・学問の追及 (+地域貢献)
 - ・研究活動に専念できる環境づくり
 - ・教員の研究支援
- 2) 人材育成
 - ・個の育成、グローバル人材
 - ・学生の学習意欲、能力の育成
 - ・独立した人間を育てる、建学の精神を引き継いでいく

2. 大学の現状

1 で挙げた大学が果たす役割については、理想とする役割を果たしきれていないのが現状であり、その理由は以下 2 点であると考えた。

- 1) 大学全入時代により、勉学に対する目的意識の低い学生の割合が増加している。
- 2) 学生に提供している学内資源が豊富すぎるため、学生が十分に活用できていない。

3. 必要な取り組み

上記のような現状の中、大学の役割を果たすためにどのような取り組みが必要であるか検討したところ以下の 3 つが挙げられた。

- 1) 教職員の参画型人材育成
- 2) 学生が個性を発揮できる場の提供
- 3) 学内資源の有効活用

4. テーマの選定①

3 で挙げた必要な取り組みの中で、「学内資源の有効活用」に焦点をあて、テーマの検討を行った。

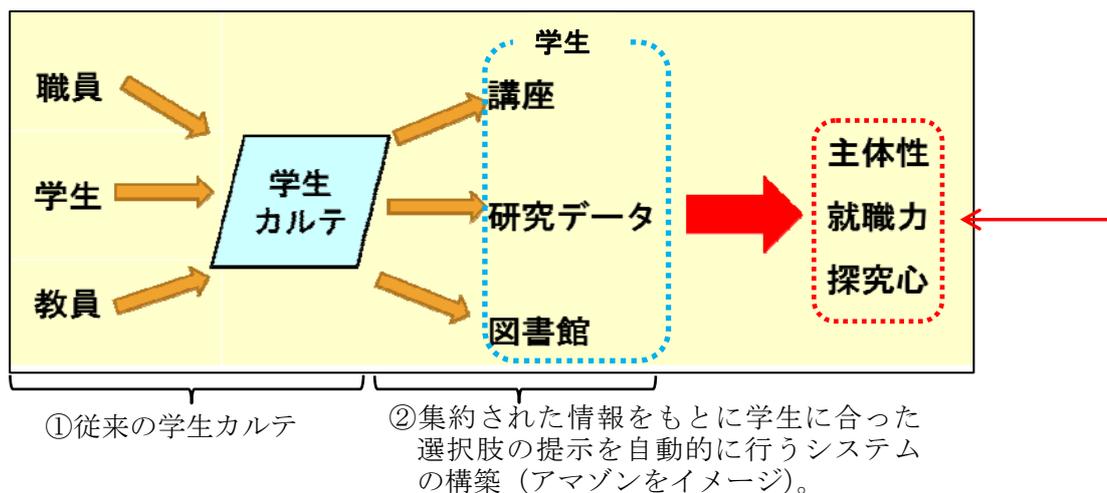
<主な学内資源>

- | | |
|------------|------------------------|
| ・各種講座 | ・図書館のデータベース |
| ・キャリアセンター | ・教員などの人材 |
| ・教員のネットワーク | ・オフィスアワー など |

5. テーマの選定②

豊富な学内資源の有効活用について、「学生カルテ」を利用することで解決できるのではないかと考え、テーマを「**学生カルテによる学内資源の有効活用**」とした。

ただし、ここでいう「学生カルテ」とは、①従来の学生管理データの成績や履修情報を単に確認するだけの機能に加えて、②教職員および学生本人が情報を入力し学生の興味関心に合わせた関連情報を大学が ICT を利用し連動させ、選択肢として提示することを指す。



6. 活用に向けての懸念点とその対応

- 1) 大学からの情報享受により、学生から自ら学修する意欲を奪ってしまうのでは。
→ 選択肢をいくつか用意することにより、むしろ、自主的に興味のある情報を選択することが可能となる。
- 2) システム導入前後の教職員へのフォロー体制
→ 説明会を実施する。
- 3) 膨大なデータの集約方法
→ 各部署間での連携、他大学のノウハウを活用する。

7. まとめ

「**学生カルテによる学内資源の有効活用**」により、

- ・単に学生情報の管理をするだけでなく学生個別の悩みや不安、関心に対する処方箋として状況に応じた助言をする。
- ・教職員から学生にコミュニケーションツールとしてもデータベース化された情報を共有し活用する。
- ・その結果、個の育成につながる。

以上